

氏名	原 岡 佳 代
授与した学位	博 士
専攻分野の名称	医 学
学位授与番号	博甲第 4317 号
学位授与の日付	平成23年3月25日
学位授与の要件	医歯学総合研究科生体制御科学専攻 (学位規則第4条第1項該当)
学位論文題目	Fragmented QRS is associated with Torsades de pointes in patients with acquired long QT syndrome (後天性QT延長症候群における多棘性QRSの意義)
論文審査委員	教授 成瀬 恵治 教授 佐野 俊二 准教授 五藤 恵次

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

後天性 QT 延長症候群 (ALQTS) は様々な素因によって引き起こされた二次的再分極異常による疾患である。ALQTS を引き起こすリスクファクターは、しばしば脱分極異常を表す器質的心疾患を含んでいる。様々な再分極パラメータが ALQTS において評価されてきたが、Torsades de pointes (TdP) の発生と関連する脱分極異常の存在について研究したものはなかった。私達は、QT 間隔の著明に延長した ALQTS 患者の再分極 (QT components) と脱分極パラメータ (fragmented QRS, fQRS) を評価した。

後天性の著明な QT 延長 ($QT_c > 550\text{ms}$) の 70 名について解析した。32 名が失神群 /TdP (Syncope group) で、38 名が自覚症状なし群 (Asymptomatic group)。fQRS と QT components (QT, QT_c , T peak-end intervals, U wave voltage) の存在を解析した。Syncope group (81%) は Asymptomatic group に比べ fQRS があり (21%, $p < 0.01$)、その fQRS の発生は素因を取り除いた前後において変化はなかった。器質的心疾患の発生は 2 つの group で差は認められなかった。Syncope group は Asymptomatic group に比べ QT と Tpe 間隔が長く、U 波が高かった ($p < 0.01$)。後天性素因は再分極異常を促進し (特に QT と Tpe 間隔の延長)、fQRS の存在はまた ALQTS 患者の TdP 発生における重要な役割を担っていると考えられた。

論 文 審 査 結 果 の 要 旨

後天性 QT 延長症候群 (ALQTS) は様々な素因によって引き起こされた二次的再分極異常による疾患である。本研究では QT 間隔の著明に延長した ALQTS 患者の再分極 (QT components) と脱分極パラメータ (fragmented QRS, fQRS) を評価した。後天性の著明な QT 延長 ($QT_c > 550\text{ms}$) の 70 名について解析した。32 名が失神群 /TdP (Syncope group) で、38 名が自覚症状なし群 (Asymptomatic group) であった。fQRS と QT components の存在を解析したところ Syncope group (81%) は Asymptomatic group に比べ fQRS があり (21%, $p < 0.01$)、その fQRS の発生は素因を取り除いた前後において変化はなかった。器質的心疾患の発生は 2 つの group で差は認められなかった。Syncope group は Asymptomatic group に比べ QT と Tpe 間隔が長く、U 波が高かった ($p < 0.01$)。後天性素因は再分極異常を促進し fQRS の存在は ALQTS 患者の TdP 発生における重要な指標となりえることを示した価値ある業績である。

よって、本研究者は博士 (医学) の学位を得る資格があると認める。